

広島県フロラ覚書 (9) ウドカズラおよびミツバコンロンソウ

世羅徹哉¹⁾

Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture (9)
Ampelopsis cantoniensis* var. *leeoides* and *Cardamine anemonoides

Tetsuya Sera¹⁾

Summary

Ampelopsis cantoniensis var. *leeoides* was rediscovered in Hiroshima Prefecture for the first time in 40 years and *Cardamine anemonoides* was newly recorded to be living in Hiroshima Prefecture.

Keywords: Hiroshima Prefecture, new record, *Ampelopsis cantoniensis* var. *leeoides*, *Cardamine anemonoides*

ウドカズラ

Ampelopsis cantoniensis* var. *leeoides

広島県植物誌によると、ウドカズラ (*Ampelopsis cantoniensis* (Hook. et Arn.) Planch. var. *leeoides* (Maxm.) F. Y. Lu が広島県に生育することは、大久保一治により 1975 年に初めて報告された。このときの証拠標本を広島県植物誌の執筆者らが調査している。しかし、その後自生が確認されなかったため、広島市の生物およびレッドデータブックひろしま 2008 では情報不足、レッドデータブックひろしま 2011 では要注意種にそれぞれ選定されている。

大久保氏が発見した渓谷は植物相の豊かな場所として知られ、多くの関係者が何度も訪れているにもかかわらず発見されないのが、すでに絶滅したのではないかと危惧されていた。そのため広島県内の植物関係者にとって本種の生育確認は永年の関心事であり、著者も渓谷を訪れるたびに双眼鏡を使って本種を探したが発見できなかった。そのような状況の中、「大久保氏は車道を歩きながら観察されたはず

なので、ウドカズラも恐らく車道に面した場所にあるだろう」という吉野由紀夫氏のアドバイスに従って渓谷内を調査したところ、本種を発見することができた。

著者は以前、山口県の吉岡龍太郎氏らの案内で萩市長門峡に自生するウドカズラを観察したことがあった。自生地は海拔高度約 120m。深い峡谷内で東向きの急斜面下部だが、広い河川に面して日当たりがよい場所だった。アラカシなどの常緑広葉樹の樹冠を覆うように繁茂した本種の葉の光沢が、陽光に当たって眩しいほどだったことを記憶している。そこで 2015 年 6 月 27 日、同様に光沢の強い葉を目視で探し、その葉を双眼鏡で確認するという手順で観察を行っていたところ、高さ約 15 メートルまで巻き上がった本種を発見した。この時は花がなかったのが 8 月 1 日に再度訪れ、花を確認した。

今回確認した自生地は、大久保氏の報告と同じ渓谷内の海拔高度 180m、東向きの日当たりの良い場所で、車道沿いの空き地に面した幅、高さともに約 15m の岩場だった。植林に適さない場所だったた

* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.108

1) 広島市植物公園

Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden No.34:37-39, 2019.